

# 平成30年度豆類振興事業助成金(試験研究)の成果概要の要約

⑨課題: 浅耕播種技術や不耕起播種技術による丹波大納言小豆ほ場の雑草防除の検討(30~2年度)

代表者: 京都府農林水産技術センター農林センター 作物部長 安川博之

## 目的

丹波大納言小豆の減収要因の一つとなっている雑草防除対策を検討するために、浅耕播種技術や不耕起播種技術による雑草発生程度の評価および作業性、収量性の評価を行う。

## 成果

### ①浅耕播種技術や不耕起播種技術による丹波大納言小豆ほ場の雑草防除の検討

・アズキ収穫期における外来ホオズキ類の発生は、不耕起播種では認められず、さらに全雑草の地上部生重は浅耕播種や不耕起播種で少なくなる傾向が見られた。また、収量についても所内慣行と同等以上であったことから、浅耕播種および不耕起播種は外来ホオズキ類の抑制に有望であると考えられた。

### ②現地実証(播種法+除草剤+機械除草)

・ほ場によって外来ホオズキ類の密度に違いがあり、本年のみの結果では、除草剤の条間散布や播種法による明確な結果は得られなかった。しかし、カルチ処理については、全雑草に対する除草効果が見られた。

播種技術の違いによる雑草発生量(小豆収穫時)

試験区	外来ホオズキ類		全雑草		精子実重 (kg/10a)
	生重(g/m <sup>2</sup> )	個体数	生重(g/m <sup>2</sup> )	個体数	
浅耕播種	279.2	4	420.6	20	112.1
不耕起播種	0.0	0	433.8	12	99.7
所内慣行	577.0	6	684.4	6	100.1



所内慣行  
耕深 約15cm



浅耕播種  
約8cm



不耕起播種  
0cm